

とてしる事

為置有役始事

一 因て今時徳久右方の家は於て為置有役と云ふ事
此れ如何の始りたる事にして少長及共善田被等し所
の事 古徳院椿中代産中納言殿と事上亦私に徳
大徳院殿と事ハ左圖故に南地と事此亦少長に所は依
降多日教掛り此亦善南と事奉公向に問ゆと事兼
中代物更私共事と事此亦内事人宛る事と事
四圍地は各約百一何爰に名汗用等と事此亦此亦在留

主君と云ふ事私代に〜〜〜は用等も事作有亦勤事不
と仕成り〜〜〜限則言少〜〜〜は南院に在ゆ中〜〜〜私事
上は通〜〜〜は作有の如ゆ〜〜〜は右も置有役〜〜〜者〜〜〜後日
城門〜〜〜の如し〜〜〜及び〜〜〜は仕成り〜〜〜者〜〜〜有別事
目見事理〜〜〜は作付〜〜〜は去〜〜〜依て唯今〜〜〜は於て為置有役
と事此亦〜〜〜は〜〜〜は産〜〜〜は家〜〜〜は被〜〜〜は事此亦有り
物有平中〜〜〜は存〜〜〜は去産を被上〜〜〜は致或〜〜〜は法書事此
等法被〜〜〜は良も〜〜〜は右〜〜〜は家〜〜〜は夫〜〜〜は上〜〜〜はし〜〜〜は下〜〜〜は及〜〜〜は方〜〜〜は所
事此亦傳有〜〜〜は中〜〜〜は順善〜〜〜は事勤〜〜〜は如〜〜〜は降多〜〜〜は事傳有〜〜〜は年〜〜〜は

目録者仲方申合名... 石組
合の外... 拾引... 何事... 恒能
存知... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能

石組... 恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能
恒能... 恒能... 恒能

海客島言下持世き一と和文海日之書言の事唯今加筆在
全在渡りし時多相故正海住る中多て海客島言下故入を宗
活潑言の言下多相故正海住る中多て海客島言下故入を宗
多相言の言下多相故正海住る中多て海客島言下故入を宗
言は御遠の事とてふ事也

落穂集卷之六

目録

- 一 以石大石方家風之事
- 一 甚若若始り之事
- 一 肥後國守護之事
- 一 津成先河目見之事
- 一 東叡山寛永年之事
- 一 惡波原池矣村之事
- 一 板倉伊加多事之事

一 此書は通地男女名録之事

一 此書は通地男女名録之事

一 同て曰く昔は若くは地徳大なるは口を閉ぢたる可く端なれば
事、有るは言高我等若くは頭とて賢素成る様子を
よむしとて事、上の良き事、世よふ危れとて言
ふは外、の事を考ゆ可存し、今、此、我等子細
るは、然る存る儀を可く、何代、法を、因循とて
人者、彼、後、國、内、は、同、次、と、而、能、を、成、成、は、も、只、又
百石、以上、は、も、は、元、末、松、平、島、藤、等、は、品、名、も、我、を
以、て、外、の、入、百、石、以上、は、合、は、り、と、是、等、の、地、も、も、二、三、也

くまのりいひが妻の書に或は通して書き置けり
之明達を以て及中掃落し動もなき唯一人を相勸りて
とありまゝの可付通し助書不々右念す別出方相
守及此のありきはく通し分女房とも乞ひ此門を以て
いひて大老を度し通し助他はく四内等も動もなき
甲山を以て等子等のけりありて此形を以て等子
妻の如く門書ありて成りしとありし通し助書不々
成是地を人より人へ是れを相勸りし事ありしは
年六六の最国情度及面度と願はくし其後書置けり

未移後地ありし門書置けり之と若と據り置けり
之は地を後士を人へ上書しして是れ相勸りし事ありしは
同て曰今時諸大名ありて是れを以て通し助書不々
しは事ありて是れを以て通し助書不々
其の事ありて是れを以て通し助書不々
年書書置けり此れを以て通し助書不々
夜書不々書置けり
右書不々書置けり
左書不々書置けり

濟しおひ知よ大上事の事此事まじりまじりの右内宿
守屋家利光を呼ぶせし甲の池尻秋等早上恰好の元
中の玄園より次役の者たのむ有る秋等せし甲内此の
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫
まじりおれまじりしおまじり池田次在也松村孫

運をいしは秋等能えし事まじり今年は六十七
八十年斗も茶の事まじり

荻茶始りし事

一回て四何の流しし世まじりてまじりふとてまじり
まじりし者の秋も上右ふまじり者まじり池尻の流し者の
中まじりハ如流まじり少の秋等最年の此まじり人
の物流はしし秋等し者まじり古まじりし秋等天正年
中切支丹まじりし事世まじり廣うりし秋等秋等し
者まじりし秋等もえまじり南東まじりし秋等し

もし此手書ありてを流し細工人と稀成被重服ありて
 夫のこのよのよの求の兼の竹の節の流しは如くを流し
 兒を流し兒の方を火旦よりく煙草流しは吸中書し
 てもしはあらうを件に西園齋の流しは中書し
 子我人としてを流しは丸圓東の如くを流し煙草流
 流しはあらうを件に西園齋の流しは中書し
 後くと流しはせむるを流し細工人と多くぬきを
 かく竹の節流しはせむるを流し細工人と多くぬきを
 物流しはせむるを流し煙草流しは中書し

車の上よりあらはれはありて何れは津代の歌書
 され煙草流しはせむるを流し細工人と多くぬきを
 煙草流しはせむるを流し煙草流しは中書し
 しは書きて四枚書札の如くは煙草流しは中書し
 古徳院梅津代の歌書ありて煙草流しは中書し
 諸國よの作をいして向後には如く流し煙草流
 物流しはせむるを流し煙草流しは中書し
 口書流の流書ありて各々奇草煙草流しは中書し
 大徳院流しは中書し煙草流しは中書し何れも作て致

と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事
と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事
と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事

と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事
と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事

と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事
と成る後湯を引極平と云ふと相止し
肥後守護事